

昨年末に熊本大、熊本学園大、崇城大の留学生5人と眞知事、熊本市長、熊大学長、経済界代表ら5人との意見交換会（熊大主催）が熊本市で開かれた。

この中で、熊大医学教育部H.I.G.O.プログラムの羅歎さん（中国）は、「国際医療観光拠点としての熊本の可能性について」を発表した。「熊本の質の高い医療と看護サービスは先進的だ。医療温泉、観光が結びつけば、医療観光を促進し、保健医療分野の国際人材育成にもつながる」と思つ」。そう訴えた。

熊大医学部には最先端のエイズ研究機関がある。国立熊本医療センターは途上国の医療人材育成に尽力。済生会熊本病院は西日本地区で鹿児島県のがんセンターに続き、2番目に国際医療機関認証を取得した。

熊本県には医学、薬学、保健、看護などの大学が集積し、各地

に温泉がある。阿蘇の健康リゾート「阿蘇ファームランド」はアジアの若者に人気のスポット。素材は既にある。

熊本に限らず佐賀と鹿児島両県ではがんを切らずに治す粒子線治療センターが開業し、国際医療拠点・九州の注目度が一気に高まつた。九州大病院は12年から外国人医療に積極姿勢だ。

課題は、熊本が健康アイラン

ド九州の中枢を目指し、県内で協力・連携できるかにある。水俣病といつ負の遺産や、水銀の害から健康を守る国連「水俣条約」も、そつとしたビジョンの中でこそ生まるのではないか。実現に求められるのは構想力、まため役と、その指導力だろう。

医療で国際貢献する熊本・九州を目指す論議を深めたい。西南戦争時の熊本が発祥となつた日本赤十字の博愛精神にも通じるはずだ。（井岸道一）

## 国際医療拠点としての九州

### 射程